

平成 18 年度事業報告

(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

平成 18 年度事業については、平成 18 年 1 月 14 日の第 85 回通常総会において承認された事業計画及び収支予算に基づき、理事会の決定・承認のもとに、概ね事業計画どおり実施することができた。

平成 18 年度の主な事業としては、8 月にドイツ・アーヘンで行われた 2006 世界馬術選手権大会および 12 月にカタール国・ドーハで行われた第 15 回アジア競技大会馬術競技でのメダル獲得を最大目標とし、各種選手選考競技会の開催を通して人馬の選考を行うとともに、派遣に伴う支援活動等を精力的に実施した。

また、日本馬術連盟主催競技会の着実な実施、公認競技会制度の一層の充実、各種講習会の開催により審判員等競技役員の技術向上等、世界に通じる優秀人馬の養成に努めた。

選手力強化においては、次世代の主力となるジュニア層を海外に派遣しての訓練や、主に強化指定選手を対象とした講習会に海外から講師を招聘しての国内訓練等を実施し、競技力向上に努めた。

各県馬連・組成団体との提携業務、公認競技会開催組織委員会との競技会成績集計、会員の各種登録・申請において、より一層 IT 化を進めたことにより、経費削減及び迅速な業務遂行を図った。

ホームページと「馬術情報」との関連性をより深めることで広報活動の一元化を図り、情報周知の充実・迅速化を推進した。

内国産乗用馬生産、調教技術の振興策として、主催競技会において優秀な成績を収めた内国産馬に対し報奨金の付与を行った。

なお、事業実施状況については、次のとおりである。

1. 各種馬術競技会の主催及び公認について

- ① 全日本障害馬術大会 2006(I)、全日本障害馬術大会 2006(II)、全日本ジュニア障害馬術大会 2006、全日本馬場馬術大会 2006、全日本ジュニア馬場馬術大会 2006、全日本総合馬術大会 2006、全日本ジュニア総合馬術大会 2006、全日本エンデュランス馬術大会 2006、国民体育大会馬術競技を主催した。

- ② 各種競技会の公認を行った。
 - ③ 国際馬術競技会を開催した。
 - ④ 必要と認めた国際競技会及び組成団体の競技会等を支援した。
2. 馬術競技に関する各種規則の制定について
- ① 我国における馬術競技に関する各種規則の制定及び改廃を行った。
 - ② 公認競技会でのカテゴリー・グレード制の整備を行った。
3. 国際競技会等への参加及び人馬の派遣について
- ① 海外合宿訓練等を実施した。
 - ② 国際馬術連盟公認の国際講習会・研修会等へ参加した。
 - ③ 国際競技会等へ選手・役員を派遣し、競技力向上に努めると共に、諸外国との交流・親善を深め、併せて国際馬術界の情報収集を図った。
 - ④ 第42回日韓馬術大会へ選手団を派遣した。
 - ⑤ 2006年世界馬術選手権大会（WEG）へ選手団を派遣した。
 - ⑥ 第15回アジア競技大会馬術競技へ選手団を派遣した。
4. 馬術の普及及び向上について
- ① 国内外で活動するナショナルチームメンバーに対し、支援を行った。
 - ② 海外よりコーチを招聘し騎乗・調教技術の向上を図った。
 - ③ 強化指定選手の認定を行った。
 - ④ 国内で開催する国際競技会に招聘する国際審判員等との交流により技術の向上を図った。
 - ⑤ 組成団体の加盟団体が所有する馬匹に対し飼育助成を行うと共に、都道府県馬術連盟及び組成団体の事務費の助成を行った。
 - ⑥ ホームページ等によりさまざまな情報を展開し、馬術普及啓蒙活動を行った。
 - ⑦ 馬事関連団体との連携を図りながら、健全な馬術の普及に努めた。
5. 競技馬及び選手の登録について
- ① 当連盟の主催・公認する競技会及び国際競技会に参加する人馬の登録業務を行った。
6. 各種資格の認定等について
- ① 審判・コースデザイナー等競技役員の講習会を実施し、新規資格者の認定及び更新を行った。

- ② (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成制度に則り公認馬術コーチを養成した。
- ③ 準コーチの検定講習会を実施した。
- ④ 馬場馬術審判員研修会及び障害審判長講習会を実施した。
- ⑤ 騎乗者資格認定を実施した。

7. 馬術に関する事項の調査研究及び指導奨励について

- ① 国際馬術連盟及びアジア馬術連盟の活動に積極的に人材派遣を図り、その活動に協力すると同時に国際舞台での発言力、影響力の強化を図った。
- ② 「一貫指導・競技者育成プログラム」に基づき研修会を実施した。
- ③ 馬事衛生対策及び情報収集のため、研究会・研修会に参加した。

8. 優秀な競技馬の増加について

- ① 優秀な乗馬に対し、優秀乗馬奨励金を支給した。
- ② 内国産馬振興のための奨励策として、内国産優秀乗馬奨励金を支給した。
- ③ 内国産馬振興の一環として、国民体育大会に参加した内国産馬に対し、実績に応じた報奨金を支給した。
- ④ 内国産乗用馬生産団体と連絡を密にし、必要な助言を行った。

9. 機関誌の刊行、頒布及び広報活動について

- ① 馬術情報の刊行及びホームページの充実を図った。
- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。

10. IT化の推進について

- ① IT化の充実により更なる事務の効率化を図った。
- ② 主催・公認競技成績のデータベースを充実させると共に、ホームページを通じて公開した。

11. 表彰制度の実施について

- ① 我が国の馬術界において、永年にわたり特に顕著な功績のあった人馬に対し功労賞の表彰を行った。
- ② 当該年度の内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬の表彰を行った。
- ③ 第15回アジア競技大会馬術競技において、顕著な功績のあった者に対し、名誉総裁表彰を行った。
- ④ 2006世界馬術選手権大会および第15回アジア競技大会馬術競技の出場

馬の所有者に対し、特別表彰を行った。

- ⑤ 第 15 回アジア競技大会馬術競技において、金メダルを獲得した者に対し、報奨金の贈呈を行った。

1 2. 組織内機構の充実について

- ① 事業運営に必要な規程・規則の制定及び改廃を行った。
- ② 総会、理事会及び各種委員会等を開催した。
- ③ 広報活動の一元化に伴い、業務部業務課に広報係を新設し、担当職員を配置した。